



認知症ケアでつながる人々 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら 施設長

「今泉台すけっと会の伊藤さんに会ってみるといいですよ」そう私に進言してくれたのは、鎌倉保健福祉事務所保健予防課の若菜課長（平成19年当時）である。実際に伊藤さんとお会いする機会があったのは、それから半年後、認知症支援のシンポジウムの打ち合わせの席である。伊藤さんの真向かいに座ったその時の印象は、<考えがしっかりあって、世界観を持っている人だ>というものだった。助け合いの会を始める前は、コンピューターでネットワークを作る仕事をしていたとお聞きした。伊藤さんの話す姿になぜか親近感を覚えた。

今泉台に認知症の人のためのデイサービスをオープンする話も、伊藤さんから頂いたものだ。すけっと会が拠点として借りていた場所を私たちに譲るから、そこでデイサービスをやってほしいというのが伊藤さんのプランだった。伊藤さんの計らいで物件の大家さんの佐藤三千代さんと会うことになった。佐藤さんとお会いして、以前パン屋さんだったその物件を見せていただいた。佐藤さんから「世界や」という名前のパン屋だったのよと聞いた。「世界や」とは、大きな名前だなと思った。聞いてみると、亡くなったご主人が貿易商を営んでいたことからその名がついたと聞いた。

デイサービスの名前も、「世界や」と思ったが、ちょっと大きすぎる気がした。いろいろ考えた結果、「ケアサロンさくら」となったが、代わりに「世界や」で使っていたものをなるべく捨てずに再利用しようと考えた。ご主人が使っていた頑丈な作りのスチール机や、鍵付きのスチール書類棚を頂いた。2階に上がると、昭和の懐かしい空気を感じる茶筆筒やちゃぶ台のある部屋があった。昭和のおばあちゃんの部屋という感じのその部屋は佐藤さんの部屋だったが、そのまま相談室として使わせてもらうことにした。

池田トミ子さん（86歳女性）との出会いは、それから1年近く経ってからだ。池田さんはアルツハイマー型認知症の方で毎日自宅から「帰ります」といって家を出て行く人だった。デイサービスでも同じで、いったん帰りますとなると、居ても立っても居られなくなるようだった。私は池田さんがどこへ帰りたいのか知るために、かつて佐藤さんが暮らしていた相談室の座布団に座り、ちゃぶ台に肘をついて池田さん故郷の話聞いていた。生まれ故郷は和歌山県の白浜の隣町だと教えてくれた。女学生の頃、電車のなかで関西方面からの新婚旅行客とよく行き会ってしまっは、そのたびに気恥ずかしい思いになったと話してくれた。池田さんの思い出話は1時間以上にも及んだが、その間「帰ります」という言葉はなかった。

池田さんの自宅での徘徊がなくなったと娘さんから聞かされたのは、それから1週間後のことだった。（続く）



相談室として使っている佐藤さんの部屋

★かまくら市民活動の日フェスティバル5月19日(土)～20日(日)に参加します。当日はパネル展示の他、オープンスペースで「かまくら散歩」の活動報告(20日午後)を行います。会員の皆様のご来場をお待ちしております♪(稲田)

～次号予告～

- ☆5.27 「かまくら散歩」～海岸散歩を楽しもう～
認知症の人とサポーター、市民、専門職の楽しい交流をレポートします！
- ☆5.13 定期総会+専門職と市民の交流ワークショップ
定期総会と総会後に行われるワークショップの様子をお伝えします！
- ☆地域の動き、24年度事業計画、他

5月・6月の予定

5月12日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
5月13日(日)	定期総会	鎌倉市福祉センター
5月25日(金)	運営会議	NPOセンター鎌倉
6月2日(土)	かまくら散歩	由比ガ浜
6月9日(水)	認知症相談事業	鎌倉市役所
6月20日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉
6月24日(日)	センター方式基礎研修	NPOセンター鎌倉

★題字について 会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご子息(知的障害のある茂明君)にお願いしました。お陰様で力強く明るい紙面ができました。(稲田)

鎌倉市との協働事業

認知症相談事業(予約制)

症状の背景や介護の仕方について解かりやすく説明します。(社)かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています

5月12日(土) 鎌倉市役所 13:30～16:30 (4月15日～予約受付)	6月9日(土) 鎌倉市役所 13:30～16:30 (5月15日～予約受付)
--	---

申し込み先:鎌倉市役所 市民健康課
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付 8:30～17:15)

入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい
資料をお送りいたします。

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局
[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
 2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
 3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)
- ※申込書送付後、年会費をお振り込みください。
郵便振込口座 00240-8-140587
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク

かまくら認知症ネットワーク

題字 古川茂明



快晴の3月25日(日)、第6回「かまくら散歩・谷戸の春を味わおう!」が開催されました。認知症の人と家族、介護の専門職、市民ら42名の参加がありました。当日の午前には認知症サポーター養成講座も開催され、講座後さっそくオレンジリングを付けてサポーター役で参加してくれた市民の方もいました。今回、介護関係者に加えて、山崎・谷戸の会、鎌倉市公園協会、オカリナを楽しむ会の方々と、楽しく交流を育むイベントに関わってくれた人は延100人にのほりました。(写真提供出口慎一氏)

13時30分過ぎ、受付を済ませると参加者は3班に分かれて管理棟前を出発。おしゃべりをしたり、景色を眺めたり、春の日差しを浴びながら、それぞれのペースでのんびりと歩きました。途中、あちらこちらでおやつや団子に使うヨモギを摘む姿も見られました。田んぼには大量のカエルの卵とオタマジャクシがいて、ここでも春を感じることが出来ました。今回は頑張って公園の奥にある梅林まで歩き、きれいに咲いた梅の花をバックに記念撮影をする場面もありました。

全員が休憩舎に集まると、オカリナを楽しむ会の方の演奏を聞き、皆で曲に合わせて歌をうたいました。その後は、お楽しみのおやつタイムです。葉っぱをお皿にして、きなこをまぶした出来たてホヤホ

ヤのヨモギ団子をいただきながら一人ずつ自己紹介、更に親睦を深めることが出来ました。このとき使われた湯呑は谷戸の会が作った竹に柿の渋を塗ったもので、とても素敵でした。交流の輪と笑顔が広がった中、記念撮影をして自由解散となりました。

初めて参加した人、何回か参加した人からも「とても楽しかった」「また参加したい」等の声が聞けました。今回の参加者は42名、またそのほかにも多くの方から協力をいただきました。年齢層も幅広く、4歳から96歳まで。笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことが出来ました。(SA)



団子をこねる谷戸の会の方達



サポートボランティアとして参加して下さった オカリナを楽しむ会のみなさんによるミニコンサート風景

オカリナの澄みわたる音色が谷戸の自然とけ込み心地よく響いていました。写真は、谷戸の会の作業小屋の一角を借りて行われた「オカリナを楽しむ会」のみなさんによるミニコンサートのひとコマです。参加者のみなさんも一緒に歌いましょうと言われて、その美しいハーモニーに合わせて歌うと、みなさんの心が一つになり、人と自然の調和を感じました。かまくら散歩の参加者だけでなく、音楽の温かさや楽しさが谷戸を散歩する他の人たちにも心地よく響いたように感じました。(IN)

「職員研修として取り組んだ認知症サポーター養成講座」



公益財団法人 鎌倉市公園協会 森屋文雄

市内の公園の管理運営業務に携わっていると、近隣にお住まいのご家族の方や警察から、行方不明になった高齢者の情報提供や問い合わせを受けることがあります。特に鎌倉中央公園においては、高齢者施設入所者の皆様方にも頻りに利用いただいています。この様な状況から、本養成講座を公園スタッフ 23名が研修として受講させていただいた次第です。

「認知症」という言葉は知っていましたが、いわゆる「呆け」くらいにしか認識していませんでしたので講座でのお話はただただ「目から鱗」で、今思えば、晩年の父の症状と多々重なるものがありました。父は大概の身の回りのことはできていましたが、あり得ない話を繰り返す事が多く、物盗られ妄想の症状もうかがえました。認知症への理解が全くなかった私は、当初「親父、何言ってんだよお」「ボケちゃったのかあ」、「そんなことはあり得ない」などと軽くあしらい、孫からも笑われていましたが、次第に笑われたり、否定的な応答だと「なんで俺の言ってる事を信じないんだ！バカにすんじゃねえ！」と言わんばかりに怒りを露にしてくるようになりましたので、その後は「そんな事があったんだあ」とか「それはよかったね」などと、話を合わせてあげると、非常におだやかで、にこやかな表情だった事が思い出されました。資料の「人とかがかわるときに」を学び、自分はマイナスのかかわり方ばかりであったと痛感しました。そして、認知症への理解を深めたと同時に、認知症の方やご家族の応援者、応援事業所として、地域貢献を果たせればと思慮いたしました。

最後に、貴法人におかれましては、今後も更なるサポーター養成講座の開催により、より多くの認知症への理解者、応援者を増やし、認知症の方とその家族が安心して暮らせる街づくり、地域づくりの担い手として、ますますのご活躍を心から祈念いたしますとともに、このような機会を与えてくださいました事に感謝し、お礼申し上げます。



※この講座は平成24年3月15日に公益財団法人鎌倉市公園協会の職員研修としてかまくら認知症ネットワークの主催で実施されました。

「センター方式入門講座」を担当して思うこと

2月24日（金）鎌倉市福祉センターで開催された入門講座には、グループホーム、通所、訪問介護、ケアマネジャー、有料ホームなど多職種の介護従事者の方など32名の出席がありました。

講座では、認知症ケアの過去と現在、これからについての話から始まり、本人本位の重要性を学びました。その後センター方式のねらいや活用法を聞いて、実際にシートに記入する演習を行いました。受講者は皆、熱心に向き合い、演習のシート記入も案外すらすらと書きこむ方が多かったのが印象的でした。

受講後のアンケートにも積極的に前向きな声がたくさん書かれていました。

「センター方式は分かり難いと思っていたが、非常に分かりやすかった」「初めてだったが利用者をじっくり分析する事が気付きにつながると分かった」「職場で使いたいと思う」「もっと学びたい」「現在センター方式を活用しているが、書き方が分からない事がある、今日アドバイスを頂き不安が取れた」などなど、今後につながる意見、感想がたくさん寄せられ、本人本位のケアにセンター方式が有効なツールであることを実感しました。また自分の職場でもセンター方式の考えを取り入れてみたいと強く思いました。(TA)



センター方式 C-1-2 シート



地域の動き 「認知症サポーター養成講座」 鎌倉学園 インターアクトクラブ 鎌倉市

3月16日（金）、鎌倉市山ノ内の鎌倉学園のインターアクトクラブの生徒9名（中学生4名、高校生5名）が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の正しい知識、認知症の方へのかかわり方を学びました。講師は鎌倉市民健康課の方が務めました。

鎌倉学園インターアクトクラブは、普段は海岸の清掃活動などをおこなっているボランティアクラブです。講座では「自分の家族や親戚に認知症の人がいたら」をテーマにグループワークで話し合いをしてもらったところ「なるべく会う機会を多くする」「困っていらしたら声をかける。でも、認知症かな？と気付くためには認知症のことを知らないといけないよ

ね」など様々な意見があがりました。

普段からボランティアを実践しているだけに、とても頼もしい気づきがあり、今後この知識を「ボランティア活動に活かしていきたい」との話を聞くこともできました。

講座の終了後には、認知症サポーターの証であるオレンジリングを腕につけて記念撮影。現在高齢化率27%と超高齢社会となった鎌倉で、未来を担う世代の方々が認知症の勉強をしてくださるのは大変意義深いことだと思います。(IN)



地域の動き 「若年性認知症・栄区の集い」 横浜市小菅ヶ谷地域ケアプラザ 横浜市栄区

2月26日（日）横浜市栄区の横浜市小菅ヶ谷地域ケアプラザにて「若年性認知症・栄区の集い」が開かれました。当日は若年性認知症の当事者9組が参加しました。また栄区内の地域包括支援センター職員、介護事業所のスタッフのほか、行政の方や認知症の人と家族の会神奈川県支部の世話人らが支援者として参加しました。

集いは本人の部と家族の部に分かれて行われ、午前中本人たちはスタッフと一緒に散策を兼ねて昼食のお弁当の買い出しに行ってもらいました。午後はお茶とケーキを食べながらスタッフの人のピアノの伴奏で歌を楽しみました。

家族の部では皆がそれぞれ介護の状況などを話し、参加したご家族からは、「栄区で初めての試みで不安もあったが、終わってみると様々な方との交流ができて良かった」「まさかこんなに本音で話せるとは思わなかった」と感想が聞かれました。又、本人の部に参加した方も「楽しかった」「いろいろ行きとどいていたね」との声を聞くことができました。

若年性認知症はサービスの選択肢が少なく、支援の仕組みが整っていないなどまだまだ課題があります。このような取り組みが各地で行われ支援の輪が広がればとの思いを強くしました。(KF)



地域の動き 「かまくら散歩と同日開催の認知症サポーター養成講座」 鎌倉中央公園 鎌倉市

3月25日（日）午前、かまくら散歩が行われた同日に、鎌倉中央公園で鎌倉認知症ネットワーク主催の「認知症サポーター養成講座」が実施されました。講師は当会代表理事の稲田秀樹氏で、講座には一般市民の他、山崎・谷戸の会、財団法人鎌倉市公園協会の職員の方など30歳代～70歳代までの男女26名の参加がありました。

講座ではテキストや資料を参考に具体例を交えながら、認知症とは、予防や対応の仕方などについて学びました。その後、5人程のグループに分かれて「自分ができること」について話し合いが行われました。

グループごとの発表では、「見た目では認知症とわ

からない人が多いとおもわれるので、夕方一人で谷戸（里山）の奥へ入っていく人を見たときは、管理事務所へ伝えておこう」など、みなで協力して支え合う必要を話しあっていました。

その日の午後には「かまくら散歩」が開催され、講座の参加者がさっそくオレンジリングをつけてサポーターとして参加し交流を楽しまれました。今後もこのような講座を市内の各地で展開し、市民の皆さんと認知症の人の明るいお付き合いに協力できたらと強く思いました。(KY)

